

学校だより



菜の花

川崎市立長沢小学校

令和6年11月1日

11月号

めざせ！やさしさ日本代表

校長 中西 憲子



長沢小 HP
(学年だより)

学校から新百合ヶ丘に向かう雨の朝、渋滞するバスに乗っていたときのできごとです。途中のバス停で、ベビーカーの赤ちゃんとお母さんが乗車してきました。通勤や通学の人でバスは混雑していましたが、「ここ座ってください」という声にみんなが通路を空け、お母さんと赤ちゃんはすぐに座ることができました。揺れるバスの中で動くベビーカーは、前に立つ人がおさえているようでした。お母さんが降車ボタンを押したときには、ドア近くの人がベビーカーをさっと降ろしました。走り出したバスの窓から、バスを見送るお母さんの笑顔が見えました。「やさしさ」の余韻が感じられるバスに揺られながら私も「幸せ」な気持ちになりました。

私はいつも子どもたちに、「やさしい人」になってほしいと話しています。「やさしさ」という言葉は誰もが知っている言葉ですが、説明するのは難しいと感じます。私が考える「やさしさ」とは、「相手の立場に立って考え、自分ができることを『する』」ことです。「してあげる」ではなく「『したい』から『する』」という心持が大事だと思っています。9月の「相手のことを考えて行動しよう」10月の「自分のやくわりを最後までやろう」という生活目標は、「やさしさ」の中核にある意識です。どちらの生活目標も「『やさしい人』になるために大切にしてほしい」と朝会等で取り上げ、子どもたちに伝えてきました。

「やさしさ」を発揮するにはどうしたらよいでしょうか。心理学の用語に「自動化」という言葉があります。「自動化」とは、「たくさんの練習や経験を通じて意識的な努力や注意をしなくても自然に行動できるようになる」ことです。学校生活の毎日は、「やさしさ」を自動化する練習や経験の場です。友達の気持ちを考え、自分にできることは何かを考えて行動することを繰り返す中で、「やさしさ」を自動化し、磨いていってほしいです。そして、誰かの「やさしさ」に気付いたら、その「幸せ」を次の自分の「やさしさ」につなげていってほしいです。

川崎市は「めざせ！やさしさ日本代表」を合言葉に、「誰もが自分らしく暮らし自己実現を図れるまち」を目指して「かわさきパラムーブメント」を推進しています。「誰もが自分らしく暮らし、自己実現を図れるまち」をつくるのは、目の前にいる人に自分から向けることができる一人一人の小さな「やさしさ」です。長沢小学校には、「やさしさ日本代表」候補が大勢います。日々の学校生活の中で一人一人が「やさしさ」を磨く11月になるように取り組んでいきたいと思います。